

「書物と装飾」

研究年度・期間：平成 22 年度

研究ディレクター：長谷川郁夫
(文芸学科 教授)

共同研究者：山縣 熙 (文芸学科 教授) 籾 亨 (教養課程 教授) 田中 敏雄 (教養課程 教授) 豊原 正智 (芸術計画学科 教授) 出口 逸平 (文芸学科 准教授)

学外共同研究者：高麗 隆彦 (東京造形大学 教授) 瀧本 雅志 (岡山県立大学デザイン学科 准教授) 福江 泰太 (文芸学科 非常勤講師)

物と装飾芸術の関係については、これまで東西の哲学者や文学者や装幀家などによって、書物のすぐれた精神性に対峙する美しい物質性の視座からさまざまに論じられている。19世紀末に量産による粗悪な書物の氾濫を憂慮したウィリアム・モリスは、「美しい書物」の復興を決意し、「中世の彩飾写本」や「初期印刷本」を範として、「装飾への愛着」や「美しいものによって美と適切さを表現する感覚作用」の重要性を説いている。また、20世紀当初のパウハウスにおいては、反装飾芸術の見地から機械時代の「新しい書物芸術」の出現が要請され、タイポグラフィーが機能的に把握されて、明確さと読み易さを最優先させながら、写真が進んで取り込まれて新しいタイポグラフィー言語の創出が企てられている。そして今日では、急激な技術革新による電子化は、書物と装飾の在り様を根本から大きく揺さぶっている。そこで本共同研究は、こうした書物と装飾芸術の関係について、本学図書館所蔵の「西欧中世写本ファクシミリ」、「ケルムスコット・プレス刊本コレクション」、「日本近世の絵手本」などの関連資料を中心にして、文芸、美術、デザイン、工芸、建築、映像などの多角的な視座から個別的に、また社会文化史的に調査研究するとともに、その芸術文化史的な意味を理論と制作の双方から総合的に考察し、その成果を現代そして未来の書物創造のエネルギー源として組み込み、書物と装飾の関係の可能性を探ることを目的とする。

そのため、本共同研究は3年計画とし、初年度にあたる平成22年度は、学内外の共同研究者からなる研究会を組織し、次のような見地から研究をさらに推進した。

【A】本文（テキスト）について…書物のすぐれた精神性

【B】本文の装飾や器としての書物について…書物の美しい物質性

それぞれに対しての1) 歴史的なアプローチ、2) 文化面からのアプローチ、3) 創造性の観点によるアプローチ、を複合的に試みた。

1) については、

・中世の写本や日本近世の絵手本を取り上げ「テキストと装飾」はどのように関連付けられデザインされたかを問うた。

・初期印刷本を取り上げ、木版装飾の役割から【A】信頼すべきテキストの成立を目指した

めの校正、校閲、索引の役割までを問うた。

2) については、ゲーテンベルグ以降、複製技術による書物がどのように文化を先導したか、大量消費、マス・メディアの時代において本の装飾とは何か、を問うた。

また、【B】の観点からは「高貴な意図」としてデザイン・装本の問題が浮かんでくる。ウィリアム・モリスのケルムスコット・プレス刊本を新たな視座から問うことを推進した。

3) については、美しい書物の成立に関わる根本問題の今日的な視座からの考察を推進した。

テーマは多岐に亘り、とりあえずは試み、問題提起のための研究ではあるが、文芸学科のみならず、他学科の関連講座担当者との連携、また学外研究員の協力を得て研究会を開催し、各自のテーマについて報告し論議をさらに深めた。

そして、本研究成果の一端は、シンポジウム「書物と装飾」（大阪芸術大学大学院 32 号館 視聴覚教室 1 平成 23 年 2 月 26 日）において、さらには平成 22 年度所蔵品展〈ウィリアム・モリスと美しい書物—全盛期の「ケルムスコット・プレス刊本」—〉（大阪芸術大学博物館、平成 23 年 1 月 8 日～27 日）において、報告された。

そして本年度の研究成果に関して、以下の個別研究テーマに基づいて、研究報告書を作成した。

- 1、長谷川郁夫 ・書物と装飾について
- 2、山縣 熙 ・書物と装飾の原理論について
- 3、藪 亨 ・ケルムスコット・プレス刊本と装飾について
- 4、田中 敏雄 ・近世日本の絵手本と装飾について
- 5、豊原 正智 ・映像関連の書物と装飾について
- 6、出口 逸平 ・演劇関連の書物と装飾について
- 7、高麗 隆彦 ・装丁の現在
- 8、瀧本 雅志 ・書物と装飾をめぐる表象文化論
- 9、福江 泰太 ・書物と装飾に関する書誌学的研究

書物芸術関係資料



図1 装釘同好会、『書物と装釘』創刊号、明治36年5月



図2 『美術雑誌アトリエ』創作版画号、昭和3年1月



図3 北原義雄編、『アトリエ美術大講座 図案科・第3巻・平面図案法』、昭和11年9月

書物芸術関係資料



図4 Edward Johnston, “Writing & Illuminating, & Lettering”, 1920 (1906)
(エドワード・ジョンストン、『書写、彩飾、字体』、第11版(1920年)(初版(1906年))



図6 Will Ransom, “Private Presses and their Books”, 1929.



図5 “Philobiblon”, 7.Jahrgang 1934 Heft Nr.4. (「ウィリアム・モリス記念号」)



図7 Herbert Spencer, “Design in Business Printing”, 1952



図8 Herbert Spencer, “Pioneers of modern typography”, 1952



図9 Rick Poyner, “Typographica”, 2002

書物デザイン関係資料

(アメリカの百貨店と通信販売カタログ、1870 - 1910年, (2010))



図10 R.H. MACY & CO'S Catalogue , 1874.

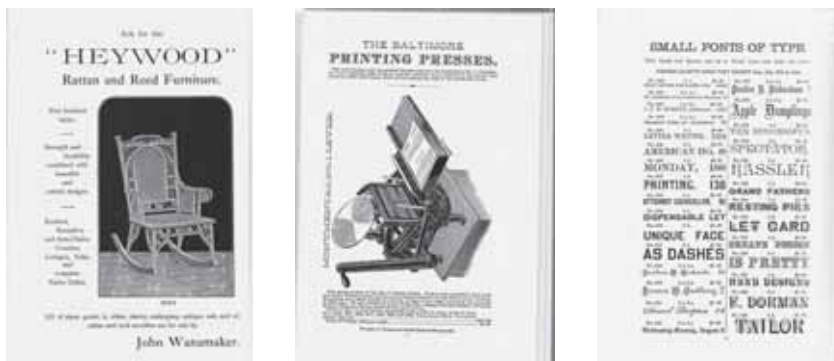


図11 John Wanamaker ,Catalogue No.52, Spring and Summer 1902



図12 Macy's Catalogue, Fall and Winter - 1910 - 1911

書物デザイン関係資料

(イギリスの百貨店と通信販売カタログ、1900 - 1912年、(2008))



図13 The Army and Navy Co-operative Society: Price List No.73, 15th March, 1901



図14 Harrods for Every Thing,1912.



図15 Harrods for Every Thing,1912